

ハッピーワンポイント英会話 八女でホームステイ 受け入れ家庭になる編

その4 "Would you like some?" 「…はいかがですか」

前回は、ホームステイを開始したクリスティンへ自分の想いを "I hope..."と表現して伝えました。

さて、今回は、朝食を食べながらの会話です。

Emi: Good morning, Kristen! Would you like some coffee?

(おはよう、クリスティン。コーヒーはいかが?)

Kristen: No, thank you. Can I have some of that orange juice please?

(いいえ、結構です。あのオレンジジュースをいただけますか?)

Emi: Sure. Here you go. (もちろん。はい、どうぞ)

Kristen: Thank you. (ありがとうございます)

Emi: So Kristen, which would you like, scrambled eggs or fried eggs?

(ねえ、クリスティン、スクランブルエッグと目玉焼き、どっちがいいかしら?)

Kristen: Um, fried eggs please. Can I have it sunny side up?

(そうですね、目玉焼きをお願いします。サニーサイドアップをお願いします)

Emi: Sunny side up? (サニーサイドアップ?)

Kristen: It means just cook one side and it will look like the sun!

(片面だけ焼いてくださいという意味です。それってお陽様みたいに見えるでしょう)

Emi: Oh, I see. OK. Would like anything else?

(なるほどね。了解。他には何かいかがですか)

ハッピーワンポイント英会話前回(その3)の復習 "I hope..." 「…になるといいですね」

ハッピーデイズイングリッシュハウス 大坪エミ

輝く 昨年11月名古屋市の昇段試験で見事剣道七段の免状をとられた山口進さんは昭和6年1月生、81歳になられたばかり。久留米工業高校勤務時代から剣道をしてこられた顔は血色もよく、眼光は鋭く輝やき矍鑠としてとてもお年を感じさせない偉丈夫である。話しぶり、立ち居振る舞い、全てに鍛え抜いた精神力、威厳が充ち圧倒される。しかし一見厳しい風貌だが話しているとき武道をきわめた人が身につけた何ともいえない温和な表情を見せられる。今も八女市総合体育館と筑後市窓ヶ原

体育館で週三回後輩の指導に汗を流されている。実は剣道は五段をとった時に卒業するつもりでした。それを知らなかった師で尊敬する延寿三雄先生(広川町)から説教されました。剣道は五段まで育てるのが一番難しく手がかる。そこでやめていったのは次の世代の剣士は誰が育てるのか。これまで育ててもらった恩返しのためにその後、続ける人を育てるべきだと論じられました。



そこで思い直して剣道を続けてきたから今の私があるのでしょう。部屋には「一朝軒伝法竹」の看板、この流派では尺八は既製品ではなく真竹を掘る所から手作りするそう

である。油絵の大作(創元会に所属)も無難作においてある。どちらか一家言をお持ちのようだがその紹介は次の機会に譲ることにした。(八女市宅間田)

春爛漫、友からの桜、たよりに、釣りの便りも添えてある。水が温むと魚影も濃くなり、何処の川のどこがいいと嬉しい便りである。釣りを楽しむ待望の季節がやって来る。八女川柳会 安達 昇



今月の山柳

男の料理教室

黒木町「ふじの里」で月一回開かれる「男の料理の会」を見学、色んなことを学ぶことができた。会員は十数名(会長・樋口周作さん)である。

この会は食進会のすすめで発足した。会場に入るとなごやかな明るい雰囲気楽しいムードだ。今年で四年目、当番を決め自主的に分担して調理にとりかかり、お互いに教え合って作業は進められた。女性の食進会の人もボランティアで参加されている。

男性は器用で仕事も早く、笑顔で喜んで料理をされる、野菜をきざむ庖丁の音もリズムカルに心地よく響く。「一回ぐらい口出しするな」と奥さんに言われる会員さんもおられるそうで思わずみんな笑った。

いよいよ料理が完成して食べる時もみんな楽しく盛り上がった。私も御馳走になったがとてもおいしかった。

後片付けも要領よく全員でさっと終了しゴミまで当番の人が持ち帰られた。このような男の料理の会をもっと広げていきたいと市の担当職員さんが話されたが私も同感だった。いい心の交流を感じた。

黒木町 月足 美智子



「ねがいまして〜は〇〇円也。〇〇円也」答えると一斉に「ごめいさ〜ん」。正に「三丁目の夕日」のワンシーンである。昭和三十年代、多くの友だちは小学校で九九を習い始めると町のそろばん教室の門をくぐった。盛んな頃は全国約400万人が通っていたという。福島にも〇〇珠算教室、〇〇珠算道場があった。ソロバンが出来ることは就職にも有利だったし、なにより生きるために必須科目だった。今や珠算人口は約40万人、そんな現代そろばんは単に計算の道具としてではなく子どもの能力を鍛える優れた手段として見直されている。

楽しい仲間たち チャレンジそろばん 八女教室

教室を開いて一年、チャレンジそろばん八女教室代表近藤信秀さんは小さい時そろばんを学ぶメリットを次のように語る。そろばんは子どもの勇気、やる気、判断力を引き出す魔法の道具です。

1+4を指で数えていた幼児が7+4をイメージできるようになり次には23+37 105-28がスラスラと答えられるようになります。少しずつ上の課題に挑戦することで学ぶ楽しさを知り、学習意欲が高まり、自信がついてきます。特に珠算式暗算は日頃鍛えにくい右脳を活性化させ、記憶力、判断力、想像力を養うといえます。現在、八女市、広川町、筑後市の幼稚園年中生(5才)から小学六年生(12才)迄の40人が学んでいます。教室は442号八女市本町(ダイレックス八女店横)関塾(八女中央進学教室内) Tel080-2692-6272まず無料体験教室からスタートです。

